

京都府漁海況情報

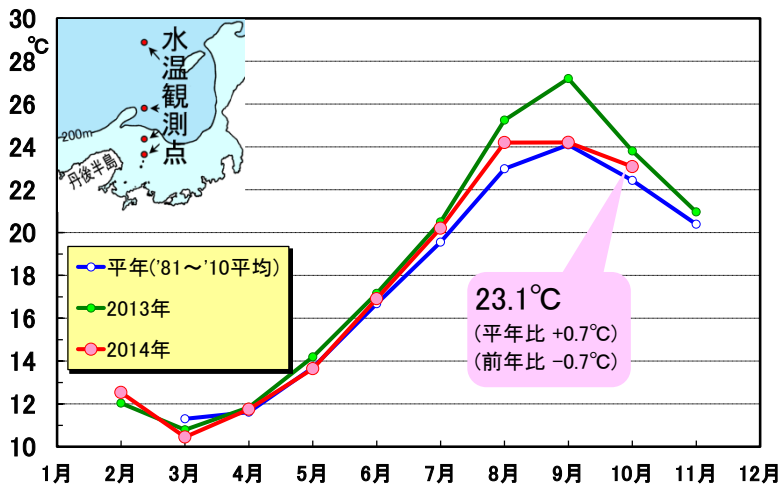
海の状況

京都府農林水産技術センター海洋センター 海洋調査部
<http://www.pref.kyoto.jp/kaiyo/>
 電話：0772-25-3078 FAX:0772-25-1532

【現況】

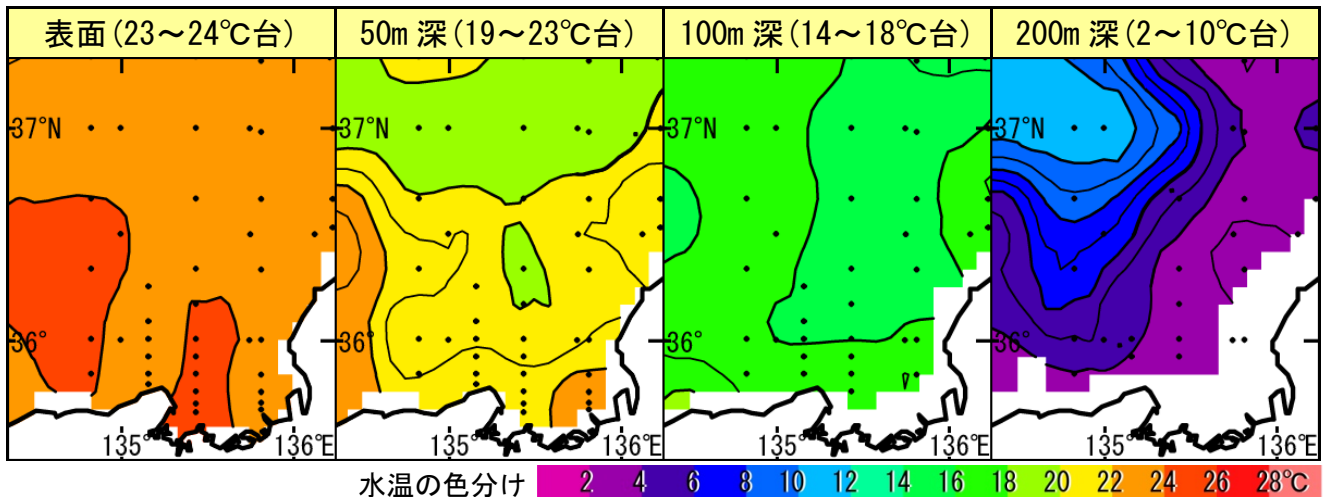
10月上旬における京都府周辺の表層水温は、やや高めで推移していました。また、沖合からの冷水域の張り出しは弱めでした。

京都府沖の表層水温(0~50m 深平均)



京都府周辺の各層水温(2014年10月上旬)

資料元：(独)日本海区水産研究所



【今後の見込み】

資料元：気象庁, (独)日本海区水産研究所

向こう1か月程度の予報	
京都府周辺の表層水温	「平年並みか平年より高め」で推移する見込み
対馬暖流の勢力	「平年並みか平年より弱め」で推移する見込み
沖合からの冷水域の張り出し※	「やや弱め」で推移する見込み

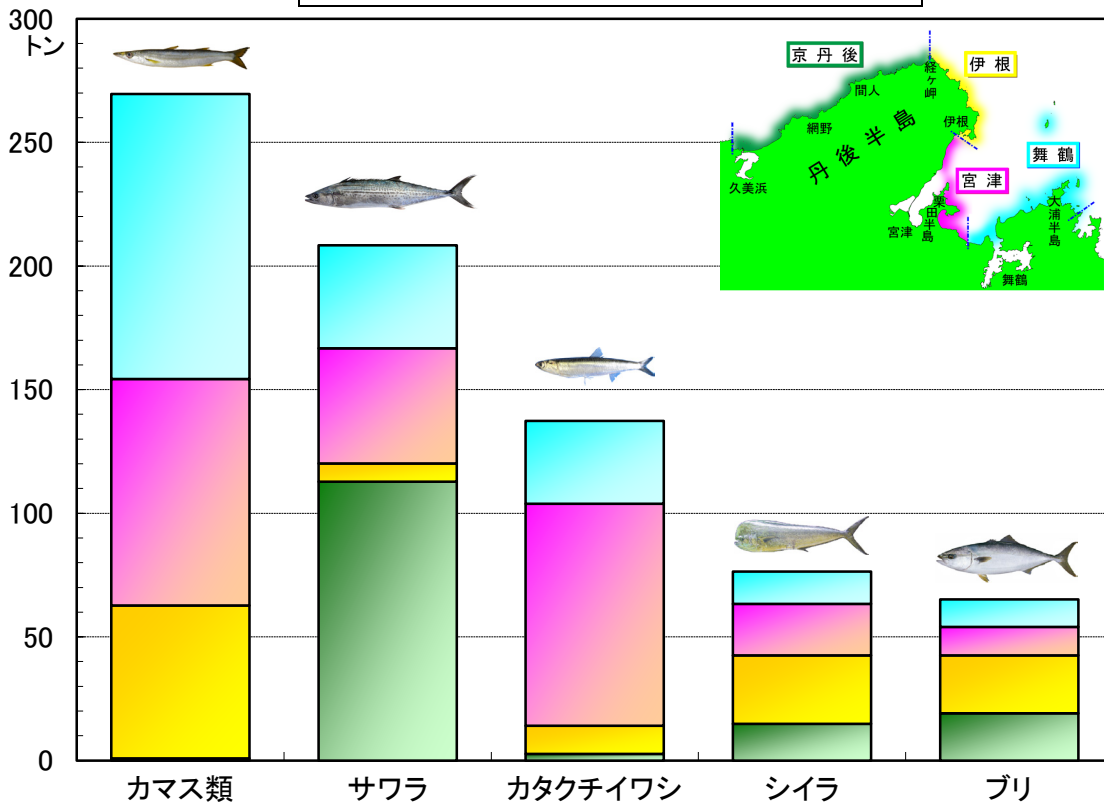
※冷水域の張り出しが強いと、対馬暖流域に生息するブリなどの浮魚類が沿岸に来遊しやすと考えられています

漁模様 ～2014年9月～

【定置網漁業】

カマス類が好漁でした。全体の水揚量は、平年の9割（前年の7割弱）でした。

2014年9月の地域別漁獲量(上位5魚種)

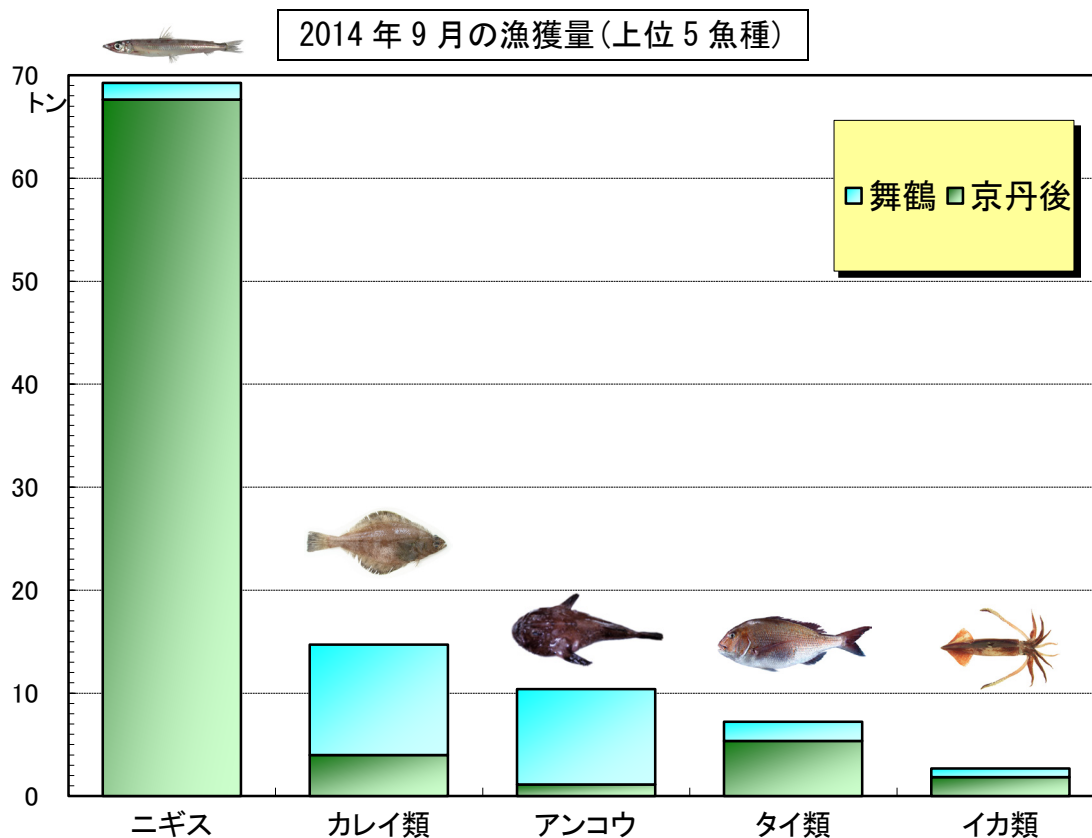


9月漁獲量(トン) 京都府漁協集計				
魚種	2014年	2013年(前年比)	平年(平年比)	備考
カマス類	269.6	99.6 (271%)	46.6 (578%)	<サワラ> さごし銘柄(尾さ長 28～41cm 台)が9割弱, さわら銘柄(尾さ長 60cm～80cm 級)が1割強でした。 <カタクチイワシ> 体長 3～7cm の小型が中心でした。 <ブリ> つばす銘柄(尾さ長 27～38cm 台)が9割以上で, はまち銘柄やまるご銘柄が若干量でした。 <イカ類> アオリイカ(秋いか)が 10.1 トン, ケンサキイカ(白いか)が 2.2 トン, ソデイカ(たるいか)が 0.2 トンなどでした。
サワラ	208.3	464.2 (45%)	324.2 (64%)	
カタクチイワシ(たれ)	137.3	101.4 (135%)	68.7 (200%)	
シイラ	76.4	25.8 (297%)	69.2 (111%)	
ブリ	65.1	298.7 (22%)	136.0 (48%)	
マアジ	52.5	76.4 (69%)	177.9 (29%)	
タチウオ	14.0	14.9 (94%)	10.7 (131%)	
カジキ類	13.9	5.6 (250%)	10.0 (139%)	
イカ類	13.2	38.7 (34%)	24.6 (54%)	
シロサバフグ(さんきゅう)	9.1	38.2 (24%)	25.5 (36%)	
その他	42.8	188.7 (23%)	106.0 (40%)	
合計	902.1	1352.1 (67%)	999.4 (90%)	

平年は過去10年平均

【底曳網漁業】

6月～8月の休漁を経て9月から秋漁期が始まりました。全体の水揚量は、平年の1.1倍(前年の1.2倍)でした。

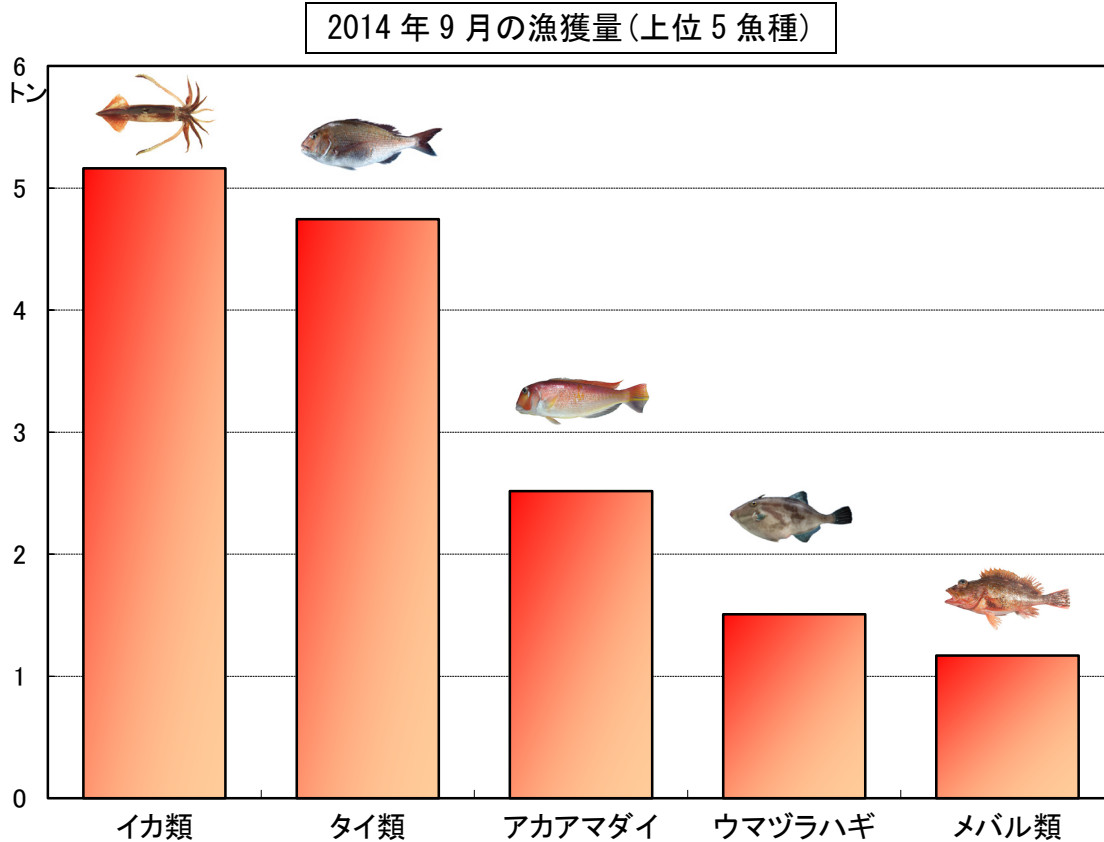


9月漁獲量(トン) 京都府漁協集計				
魚種	2014年	2013年(前年比)	平年(平年比)	備考
ニギス(沖きす)	69.3	63.6 (109%)	57.6 (120%)	<カレイ類> ヤナギムシガレイ(ささがれい)が 5.5トン, ムシガレイ(水がれい)が 4.7トン, ソウハチ(えてがれい)が 2.1トンなどでした。
カレイ類	14.7	18.4 (80%)	19.7 (75%)	
アンコウ	10.4	6.2 (167%)	10.8 (97%)	
タイ類	7.2	2.5 (290%)	2.5 (288%)	
イカ類	2.7	1.2 (234%)	2.4 (111%)	
タコ類	1.5	1.7 (85%)	2.1 (69%)	
マトウダイ類(ぼと)	1.2	1.2 (102%)	1.1 (106%)	
エビ類	1.0	1.0 (102%)	0.4 (296%)	
カナガシラ	1.0	0.3 (377%)	0.6 (179%)	
ハタハタ	0.9	—	1.2 (76%)	
その他	8.3	5.4 (155%)	5.9 (140%)	
合計	118.2	101.4 (117%)	104.2 (113%)	

平年は過去10年平均

【釣り・はえなわ漁業】

全体の水揚量は、平年の7割弱（前年の4割強）でした。前年秋季に好漁だったソデイカ（たるいか）は、今のところ少漁気味で推移しています。



9月漁獲量(トン) 京都府漁協集計					
魚種	2014年	2013年(前年比)	平年(平年比)	備考	
イカ類	5.2	27.5 (19%)	11.2 (46%)	<イカ類> ソデイカ(たるいか)が3.8トン、スルメイカが1.0トンなどでした。 <タイ類> マダイが6割、キダイ(レンコダイ)が4割、クロダイとチダイが若干量でした。	
タイ類	4.7	4.1 (115%)	4.4 (107%)		
アカアマダイ(ぐじ)	2.5	2.3 (110%)	2.7 (93%)		
ウマヅラハギ(長はぎ)	1.5	0.3 (442%)	1.1 (138%)		
メバル類(もいお)	1.2	1.3 (89%)	0.7 (170%)		
マアジ	0.2	0.2 (84%)	0.3 (53%)		
サワラ	0.2	—	0.8 (21%)		
ブリ	0.2	1.0 (17%)	1.3 (13%)		
メジナ(つかや)	0.1	0.2 (31%)	—		
ヒラマサ	0.1	0.4 (15%)	0.1 (87%)		
その他	0.8	1.4 (61%)	2.1 (39%)		
合計	16.6	38.8 (43%)	24.8 (67%)		

平年は過去10年平均

【トピック ～ズワイガニと寒ブリ～】

丹後の冬の味覚，ズワイガニと寒ブリの今シーズンの資源状況(推定)です。

<ズワイガニ>

漁が解禁(11月6日)する前に海洋調査船「平安丸」でカニ籠による丹後沖のズワイガニ資源調査を行いました(写真)。今年の採捕状況は，過去5年平均に比べると，雄ガニ(甲幅9cm以上)が93%，雌ガニ(こっぺ)が178%でした。底曳網によるズワイガニの好漁を期待しております。



ズワイガニ資源調査の様子。今年は8月18日から9月18日にかけて丹後沖海深230～320mの14地点で，餌のサバを入れたカゴをのべ292個仕掛けました。採捕されたカニは，カゴごとの個体数や大きさなどを調べた後，標識をつけて再放流しました。

<寒ブリ>

今冬の水揚げの中心になるとみられる2011年産まれの3歳魚(体重10kg前後)や2012年産まれの2歳魚(体重6kg前後)の資源量は多いようです(水産総合研究センター調べ)。資源状態が良いと豊漁の期待が高まりますが，必ずしも丹後の定置漁場への寒ブリ来遊量の増加に結びつくわけではありません。例えば，昨シーズンも大型ブリの資源状態は良いとされていましたが，ふたを開けてみれば平年同期比15%の16トン(2013年10月～2014年3月合計)と低調でした。



水揚げされた寒ブリ(舞鶴市，2013年12月24日)

ちなみに，新潟県から福井県の水産試験場による各県沿岸の今シーズンの寒ブリ予報は，資源状態や海況から好漁を見込む機関もあれば，逆に今冬の家況が漁況に不適と判断する機関もあり，まちまちです。

丹後の海の今年度下半期の大型ブリの定置網漁獲量は，少なくとも平年並みに達することを期待しております。